



EXCITING DUATHLON GRAND PRIX CalfMan Japan



第5回日本デュアスロン選手権長良川大会 兼 カーフマンジャパンGP2004チャンピオンシップ

女子は高木美里（湘南ベルマーレトライアスロンクラブ）が初優勝、
男子は高橋泰夫（㈱タカイワ染工CW-X）が3年ぶりの復活V。

【女子レースレポート】



1周1.25kmを4周回するこのコース、最初に飛び出したのは東海・九州の両ステージを制覇した長谷川奈央子（博多TC）、これにラン得意の鈴木純子（兵庫県協会）、渡辺亜希子（トライアスロン村上塾）、そして高木美里、近畿ステージ覇者の岸麻衣子（広島大学OB）もついていく。2周目に入ると長谷川は徐々に失速、と同時に鈴木、渡辺の2人のランナーがペースアップ。高木、岸も必死に食らいついて行く。3周目に入ると岸が遅れ始め、高木も次のバイクを考えてか無理については行かない。結局2人の高速ランナーが競うようにトランジションへ、約10秒の遅れをとっていた高木は目も覚めるような高速トランジションを披露し、2人にあっという間に追いついてバイクスタート。

先頭から約20秒遅れで岸、30秒遅れで松島玲奈（学習院大学トライアスロン愛好会）もバイクコースへ飛び出す。

ほとんど同時にスタートした高木、鈴木、渡辺の3人であったが、高木がバイクの底力を発揮、一気に加速し2人を置き去りにするとグングン差を広げ、なんと1周目だけで後続に早くも1分以上の差をつける。バイク得意の松島、岸も前の2人に追いついて、セカンドパックは4人の集団を形成するも、なかなかローテーションがうまくいかず、単独で逃げる高木との差は広がるばかり。結局第2パックは野中美佐（三好SAトライアスロン倶楽部）を中心に追い上げを図った第3パックに最後の周回で吸収され8人の集団になった。1時は2分以上開いた差も、8人のパックで追い上げ1分55秒の差で勝負の第2ランに移った。



第2ランに入ると再び息を吹き返したのが、

鈴木、渡辺の2名。特に鈴木は第1ランをも上回るハイペースで高木を追う。第2ラン1周目までは必死について行った渡辺であったが、2周目から徐々に後退。逆に鈴木と高木の差はぐんぐん縮まっていく。第2ランスタート時点で約2分あった差は周回ごとに約30秒縮まり、大逆転もあるのかという周囲の期待も膨らんだが、途中で鈴木の追い上げに気付いた高木も必死に粘りの走り、最後は13秒差に迫られながらもどうにか逃げ切り、念願の初優勝を飾った。



【男子レースレポート】



レースの序盤、第1ランから先頭で引っ張ったのは、エリートランナー中田崇志（関東RC / ProfileDesign/味の素）。ドラフティングフリーのこの大会で、第1バックに入れるかどうかは、レースを大きく左右する。キロ3分を切る中田のペースについていけたのが、第3回日本選手権覇者・長谷亮（株）ライフ / 全保連（株）、第4回日本選手権覇者・森正（三重県協会）第1回カーフマンチャンピオン・菊地次郎（山形泌尿器科クリニック）東海ステージ覇者・立間淳弘（立命館大学トライアスロン同好会）北関東ステージ覇者・山本真二（東北大学学友会トライアスロン部）そして第1回、第2回日本選手権覇者の高橋泰夫（株）タカイワ染工CW-X）の6名。いずれ劣らぬ強豪ばかりで緊迫した展開になった。15分を切るタイムで中田を先頭にトランジッションに入った7人は素早いトランジッションの高橋、菊地を先頭にバイクコースへ飛び出していった。

バイクパートに入ると、きれいな先頭

交代で逃げを打つ7人であったが、広報から竹内鉄平（三好SAトライアスロン倶楽部）や益田大貴（湘南ベルマーレトライアスロンクラブ）らのトライアスリートらを中心に8人の集団が猛烈な追い上げを見せ、最終回にはついに追いついて総勢15名の大集団となった。先頭の有利な位置でバイクラックに飛び込んできた高橋泰夫であったが、トランジッションでとまどり、あっという間に先頭から9秒差遅れの11位に後退する。





第2ランに入ってまず飛び出したのは菊地次郎。見ているギャラリーが驚く程のスピードで通り過ぎていく。一時は後続に10m近い差をつけ、V2の予感さえ漂っていた。

しかし2周目に入ると、後続がじりじりと追いつける。菊地も前半の飛ばしすぎからかやや脚色が鈍ってきた。そして3周目、ついに森正が菊地を捕らえトップに踊り出る。しかし山本、高橋、長谷らも必死の形相ですぐ後ろに続き、エリート選手同士の激しいつばぜり合いが続く。

そしてドラマが待っていたのは最終周。フラットな河川敷のコースの中に意識的に入れた約80mの緩い上り坂、ここでベテラン高橋が一気にスパート。森との差がじわじわと開く。逃げる高橋、追う森、最後

の最後の直線でその差は約30m、ついに高橋が3年ぶり3回目のタイトルを奪取する瞬間がやってきた。観客から大きな拍手と歓声が沸く中、大きな雄たけびとともにガッツポーズで高橋がフィニッシュ。遅れること9秒で森が、そして菊地、山本、長谷と一気に続けてフィニッシュ。肉体の限界ぎりぎりまで追い込んで勝負をかけた選手たちが、フィニッシュ後に互いに互いの検討を祝福している光景は、見ている者にさわやかな感動を与えてくれた。



この件に関するご質問は

カーフマン・ジャパントリアスロン大会事務局

担当：清本 直

〒206-0802 東京都稲城市東長沼2 1 2 0 - 6 グランヴェルジェ104

TEL 042-379-5201 FAX 042-379-1992

URL <http://www.mspo.jp/calfman>

E-mail calfman@mspo.jp